

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	豊島区要町 3-22-10 1F
園名	アスクかなめ町保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

えいご

<テーマの設定理由>

乳児期にたくさんの言葉を知ることが新たな発見をする力を養えると考え、日本語に限らず英語にも文化を通じて触れていきたいと考えたため。また、食育に力を入れている園であるため、果物・野菜といった身近で関心のある素材に別の言い方があることを知ることや、素材を使った歌やカードなどの遊びの中から様々な世界を知っていくことで、その後の生活の中での新たな発見、つながりを見つけていけると考えたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする。
前半では英語と日本語の違いについて聴覚や視覚（色）を通して触れていく。実際に野菜や果物の絵本を見たり、身近なところにあるものの色などを通じて英語に触れていく機会を設けた。

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

英語の言い方をしる→イラストカード、ipad、絵本
ひもとおし→動作をしながら色について感じる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

4. 探究活動の実践

〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

【0 歳児】

「あか」はわかりやすく反応する子が多くいました。散歩でも「あかどこ？」と保育者が投げかけると「あった！」と指さししていた。

色探しでは友だちの洋服の色を指さしして伝えたり、保育者の手を引いて教えようとする場面が見られた。

【1 歳児】

絵本で知っている野菜の名前を日本語で答えたり「おいしいよね」など保育者に伝えていた

野菜や果物の塗り絵で自由に自分の思う色を使用して塗って楽しんでいた。

【2 歳児】

絵本ではサンドイッチの絵本だったため、「これが好き」「ぼくはこれ！」など自分の好きな具材を伝え合うなどしていた。サンドイッチを挟むなどの動作も真似しており色と動作を連動させていた。

クレヨンを受け取るときに「プリーズ」と言って受け取ったり、発音を気にしている子もいた。色を英語でなんていうのか気にしている子が多かった。

野菜や果物の塗り絵では物と色とを連動させてクレヨンを選び色を塗っていった。その際「レッド」「ブルー」などと英語で色を答えており、色を通じて言語の概念を探究した。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

野菜・色・クレヨンが連動して活動が行われていた。

果物や野菜の発音に加えて、色も英語で発音していて子どもたちも楽しんでいた。

今後も身近な物の色などは英語で発音したりして興味関心を広げていきたい。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	豊島区要町 3-22-10 1F
園名	アスクかなめ町保育園

1. 活動のテーマ

おと

<テーマの設定理由>

・片言で話し始めた子どもたちが親しみやすいオノマトペを音楽や体を使って表現することで、表現力がより豊かになると考えたため。

・身近なものを叩いたりぶついたり試行錯誤をして品物の本質を確かめている子どもたちなので、もっと様々な音がするものや初めて触るもので試してみたら楽しく発展できると考えたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

1 1月：絵本を通してオノマトペを知る 身近な音を探す

1 2月：ピアノの音に合わせてオノマトペを表現する
紙を丸めたり、破いたりするときのオノマトペを知る

2 月：中身の大きさによって音の違いを楽しむ

3 月：様々な楽器に触れてみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

オノマトペの導入 → 絵本

いろいろなオノマトペ → ピアノや紙、クレヨン

楽器に触れる→シードラム、ウッドブロック、太鼓

11/11・・・園内のオノマトペを探す(水道、電話、P Cのキーボードなど)

12/2・・・ピアノに合わせて表現する(高い音、低い音など)

1/6・・・音楽に合わせてクレヨンで描いたり、紙を破く(グルグルやビリビリなどのオノマトペ)

2月：中身の粒の大きさが違う太鼓に触れ、叩いたり振ってみたりして楽しんだ

3月：ウッドブロック、太鼓など様々な楽器に触れた

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

11月：気付いた音に対してみんなで反応する姿が見られた。散歩中に音が聞こえると周りを見渡していた。月齢が上の児童に対しては園内でオノマトペ探しを行った。時計の音で保育者がチクタクと発すると子どもも「チクタクだね」と発していた。○○はどんな音かな？と保育者が投げかけると考える姿が見られた。

12月：ピアノの音に興味津々で頭や体を揺らしたり、しゃがんだり立ったりしていた

1月：クレヨンや紙があることでより子どもたちの興味が湧き、月齢が高い子は描く時に「ぐるぐる」など言いながら描いていた。紙を破くと保育者に見せて喜んだ表情を見せていた

2月：中身の粒の大きさが違う太鼓に触れ、叩いたり振ってみたりして楽しんだ

3月：ウッドブロック、太鼓など様々な楽器に触れた

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

0 歳児であるが年の後半だったこともあり、身近な音に大きく興味を抱いていたと思う。オノマトペを体感することによる擬音をしり、子どもたちも言葉を言いやすく、職員もオノマトペを探して保育の中で伝えるなど意識することができた。

楽器に対しての興味関心は高く、意欲的に触れたり叩いたり振ったりしていた。

音が鳴ると嬉しそうな表情をうかべ、保育者と顔を見合わせていた。

普段はあまり多くの楽器と触れ合うことはないため、楽器を増やして日常から触れる機会を作っていきたい。

1 歳児クラスでは身近なオノマトペは日常の会話やりとりで使っているため、子どもたちも分かりやすいように感じた。オノマトペがあることで物・音・言葉が繋がり語彙力も高まっていくと思った。

2 歳児クラスではオノマトペを体感したことで普段の散歩などでも、音に対してより興味を持つようになり友だち同士や保育者に伝え合う様子が多く見られるようになった



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	豊島区要町 3-22-10 1F
園名	アスクかなめ町保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

からだ～いろいろな世界を体感しよう～（逆さまの世界／動物の世界）

<テーマの設定理由>

ふれあい遊びなどで保育者の膝の上に寝そべり逆さまになると喜んでおり、楽しんでいるため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる。

11月：動物のイラストを見てイメージを膨らませながら動きを真似する

12月：動物に変身してロープ遊びを楽しむ

1月：動物に変身してマット遊びを楽しむ

2月：保育者につかまって逆さま世界を楽しむ

3月：鉄棒で逆さま世界を楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

逆さま世界を楽しむ→鉄棒、マット、跳び箱

動物のイメージを膨らませる→イラストカード、えほん、スピーカー、スクリーン、
布

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 11月：動物のイラストを見たりして、保育者の動きを真似しようとしていた
12月：ロープの上をハイハイ（犬の真似）したり、追ったりして楽しんだ
1月：ハイハイでマットのトンネルを楽しんだり、コアラで保育者に抱っこされていた／マットを使って山を作り来生任にあそびきった
2月：保育者つかまってコアラになったり、立った状態、座った状態で逆さまになり
高さの違いを楽しんでいた
3月：跳び箱の上にマットを敷き寝そべて逆さま世界を体感したり、鉄棒にぶら下がったりした

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 11月：身近な動物だったため、イラストに興味を持ったり、指さししていた
高月齢の子は保育者の動きを真似したり「わんわん」「にゃんにゃん」など言葉が発していた
12月：ロープを保育者が動かすと、興味を持ってハイハイしながら追いかけていた
掴もうとする姿が見られた
1月：トンネルは少し怖いのか進むこと手前で止まっている子とそれぞれであった
2月：保育者につかまって逆さまになる際、少し怖がっている子いたが慣れると楽しみ、“もっとやって”と言うような表情や仕草をしていた
3月：鉄棒にぶら下がるのは初めての子もいたと思うので、鉄棒に興味津々だった
保育者に支えられて楽しそうな表情を見せていた。年齢が高いクラスだと自ら一緒にぶらさがったりしてさかさま世界を探究した。

5. ふりかえり

始めは少し怖がる表情の子もいたが、慣れると全員がたのしんでいる様子であった。
ふれあい遊びで逆さまになる機会はそこまで多くないため、跳び箱やマット、鉄棒などの器具を用いたりして今後も行っていきたい。
普段の保育ではあまり逆さまになる機会は限られているため子どもたちも積極的に参加したのしんでいた。今 2 歳児後半からはゲームや集団遊びにも逆さま遊びができるようになってきているため、取り組んでいきたい。
1歳児クラスでは動物の動きは普段の保育の中にも取り入れやすく、日常でも体操などで動きを取り入れることができた。子どもも動物はイメージしやすく。自分から動きを真似したり「こうでしょ」「こうだよ!」と保育者に伝えていたため、探求活動も行いやすいと感じた

